

# 新型コロナウイルスの影響を受けた学生への支援状況等に関する調査

令和2年  
12月時点

- ◆ 調査対象：全国の国公立大学（短期大学を含む）及び高等専門学校
- ◆ 調査期間：令和3年1月18日～（2月10日時点：回答率95.3%）
- ◆ 調査趣旨：各大学等における経済的に困難な学生に対する支援状況や中途退学者・休学者の状況等について調査

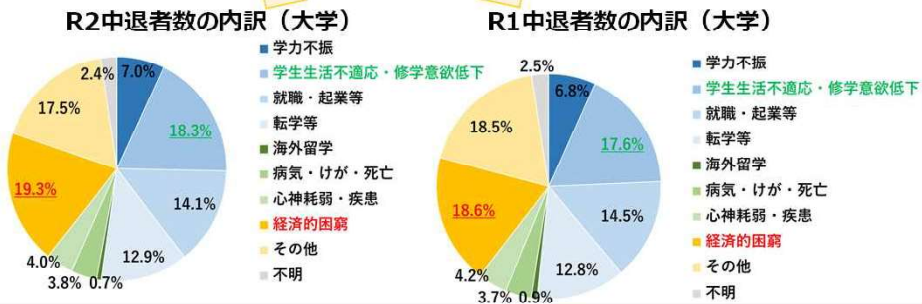
- 令和2年10月末時点の調査に引き続き、各大学等において後期分の授業料の納付猶予や、国の制度によらない独自の授業料等減免を実施。
  - ・全体の98.5%の大学等において、後期分の授業料の納付猶予を実施（授業料の未納者がいない場合も含む）。
  - ・大学等の学生総数に占める後期授業料の納付猶予者数の割合は、7.04%（昨年度5.20%）。
  - ・全体の74.0%の大学等において、経済的に困難な学生を対象とした各大学等による授業料等減免を実施。

## 中途退学者の状況（4月～12月の状況を比較）

- 学生数に占める4月～12月の中退者数の割合は、令和元年度に比べて令和2年度の方がやや少ない。
- 中退の最も中心的な理由は、令和2年度と令和元年度で概ね同様の傾向。主なものは、経済的困窮（19.3%）、学生生活不適応・修学意欲低下（18.3%）など。

大学 (大学院生含む)	全体		学部1年生のみ	
	R2 (4月～12月)	R1 (4月～12月)	R2 (4月～12月)	R1 (4月～12月)
中退者数	28,647人 (1,367人)	36,016人	5,186人 (470人)	7,096人
学生数に占める 中退者数の割合	0.97% (0.05%)	1.22%	0.76% (0.07%)	1.02%

※括弧内は、そのうち新型コロナウイルス感染症の影響によるものと判明している者の数/割合

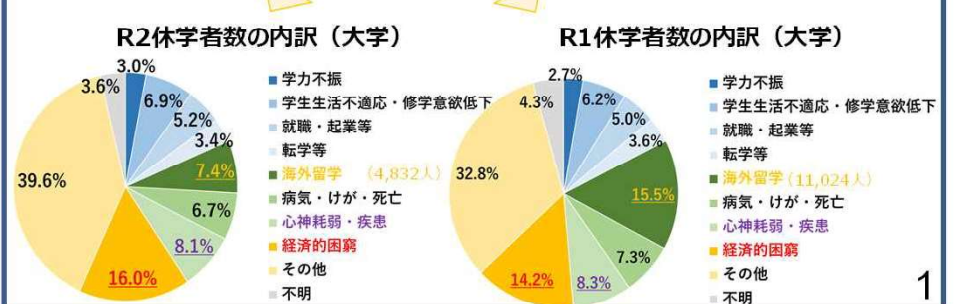


## 休学者の状況（4月～12月の状況を比較）

- 学生数に占める4月～12月の休学者数の割合は、令和2年度と令和元年度で、大きな変化は無い。
- 休学の最も中心的な理由は、令和2年度に比べ海外留学が大きく減少している。主なものは、経済的困窮（16.0%）、心身耗弱・疾患（8.1%）など。

大学 (大学院生含む)	全体		学部1年生のみ	
	R2 (4月～12月)	R1 (4月～12月)	R2 (4月～12月)	R1 (4月～12月)
休学者数	65,670人 (4,434人)	71,287人	6,440人 (859人)	6,020人
学生数に占める 休学者数の割合	2.23% (0.15%)	2.42%	0.95% (0.13%)	0.88%

※括弧内は、そのうち新型コロナウイルス感染症の影響によるものと判明している者の数/割合



→ 年度末に向けて中退・休学者が増加することも考えられることから、引き続き状況を注視するとともに、大学等と連携して学生へのきめ細かな支援を継続して実施。